

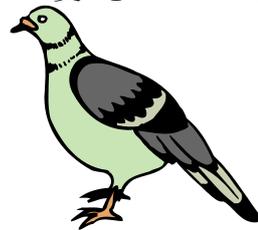
「木島平産」の鮭

東京都東村山市 小林 邦男

鮭は、川でふ化して海へ下り、4〜5年後再び生まれた川に戻り、子孫を残して命を終えると言う。人もまた故郷に対する回帰志向や暑い望郷の思いを抱いている。豊かで美しい自然と、貧しいながらも素朴で暖かい人々に囲まれた故郷での記憶は、今でも色あせることなく心に刻まれており、折に触れて郷愁を誘う。

私は、小見出身で、上京して昨年で丁度50年になる。子どもの頃の懐かしい思い出の一つに、鳩との出会いがある。

小学校4年生の頃、兄が一羽の伝書鳩を貰ってきて飼っていた。ひなから大切に世話をしていた甲斐があり、大変よく人に懐いていた。空を飛んでいても口笛を吹くと、直ぐに降りてきて肩や手に止まる。人が歩いていると影のように後を追って行く。また来客が帰る時は、二〇〇メートル程先の県道辺りまで、見送るように飛んで戻ってきた。ところがある朝、鳩小屋へ行ってみると辺りに羽が散乱



していた。目を疑うような悲惨な光景が広がっていた。猫にやられていたのだ。子供心に悲しく辛い思いをしたのを覚えている。

その後、鳩へのいとおしさが忘れられず、春になるとヤマ鳩の巣を見つけて、ひなを捕まえて飼ってみたが、人には懐かず、放鳥すると戻ってこなかった。

中学3年生の時、南部の同級生から「小学校の体育館の天井裏にド鳩が沢山いる」との話聞き、同級生2名と捕獲することになった。懐中電灯と麻袋を持ち、梯子等を使い天井裏へ登り、屋根下の

棧に止まっていたド鳩10羽程捕まえた。その後2羽を持ち帰って半年程飼ってみたが、結局野生に戻ってしまった。

その時の同級生については、一人は既に他界され、もう一人は4年前の同級会で久し振りに再会した。このことが宴席で話題となり「あの時は夢中だったが、今考えてもこわくてゾツとする」等と、当時のことに花が咲き大いに盛り上がった。

●一昨年10月、農林高校の林業科で、六クラスを担当された教師の「恩師を囲む木島平会」が開かれ、世代を超えて20数名が集まった。82歳の恩師が挨拶で「君たちは、勉強をしないで本当に遊んばかりいた。しかし殆どが希望どおりに就職ができ、良い時代でもあった」云々と話され、心当たりのある者から爆笑が起こったが、私もその一人であった。参加者はいずれも年齢相応の外見ではあったが、心は童心に帰って会話がはずみ楽しい一時であった。

●私は、故郷で四季を通じて自然の中で友人と遊んだり、鳥や魚等動物と身近に接して過ごしたことは、大変貴重な経験であったと思っている。そんな心の原点があるからこそ、鮭が大海で様々な苦難に耐えたように、私も社会の荒波を何とか乗り越えることができ、今日があるようにも思う。そして、故郷という川は、いつまでも絶えることなく「木島平産の鮭」が遡上する、豊かで美しい清流であって欲しいと願っています。



会報原稿募集中!

郵送・FAX・メールいずれかの方法でお願いします。

【送付先】

〒389の2392 木島平村役場内 ふるさと応援団事務局

fax 02696の82の4121 ☒ kicho@kijimadaira.jp まで

第1回全国高校スキー大会優勝は下高井農林高

スキー現役選手、趣味でスキーと登山の歴史研究、栃木市在住 土屋晴夫

「2月の会報」でさいたま市の清水正明様の懐かしい文章を読み、それに誘発されて私も筆をとりました。

表題のことは余り知られていないが間違いありません。村出身のお二人（藤島選手、畔上選手）の他、秋津の田中選手、飯山の江藤選手（後にスコーバレーオリンピックピックのジャンプ選手）も活躍されて男子の部で優勝しました。『長野県スキー連盟五十年史』参照）

村出身の藤島選手を日大に入学させたのは、私の家の近くにお住いの当時監督であった鶴見宜基氏です。彼は、歯科医師であり、父親の宜信氏は、大正14年2月の全日本スキー連盟SAJ創立会議議長をしていました。

日大スキー部は、戦後大学選手権で10連勝しています。その前半の監督が鶴見氏で、後半の監督は、IOC委員も務めた人で東京美装社長でした。

当時の私立大学入試は、各部の監督に数人の入試枠が与えられていました。私の高校同期の小川浩史も社会人の後、関西学院大に入って大学選手権の距離競技で優勝しています。鶴見氏は、今も農林高校を中心に木島平の道を良くご存知でびっくりしてしまします。

日大卒業後、藤島氏は、志賀高原でスキー学校長をされました。奥様の領子さんは、東京の人でしたが、旦那さんにスキーを教わって、私が所属している栃木市スキークラブが良く利用した苗場スキー場スキー学校で校長をされていました。



鶴見宜典（医博の弟で栃木県マスターズ协会会长）夫妻や私たちが、SAJマスターズ大会に出たのは広島県の芸北国際スキー場大会からです。そこで藤島領子さんと鶴見敏子さん（和歌山の人）が、優勝を争いました。飯山市からは山崎孔子先輩も出ておられたから、私が領子さんに「ご主人さんにも出て貰って下さい。」と言いましたが、彼女は「旦那は絶対に出ないでしょう。」と。私にはその気持ちが察せられました。

去年3月、私は、或る学会で“自然人猪谷六合雄、サダ、千春親子のスキーに就いて”を発表しました。夫妻が独力で、赤城でジャンプ台を作り、ノルウェー選手や我が国のオリンピック選手を招いての国際ジャンプ大会から、千春少年のスキー英才教育のことをまとめたのでした。

猪谷千春著『我が人生のシユプール』には、SAJの上高地の涸沢強化合宿に就いて記されています。藤島幸造選手や畔上智弘選手も参加者名簿に載っていました。ご両人も、当時としては我が国の有力オリンピック選手候補者だったのでしようね。尚、畔上さんの妹の豊子さんによると「兄は亡くなった」とのことです。合掌。

私は、毎年札幌国際スキーマラソン（25kmの部）に出ています。今年は、木島平でXCスキーを教えているオフィス・ミブラの桜田さんとホテルも一緒でした。昨年の大会時に、ホテルで木島平中学校が全中ノルディック大会に優勝した新聞を読んで嬉しくなりました。

志賀高原で山の家をお持ちだった麻生武治氏は、その著書『我がスキーシユプール』の末尾にLANGLAUFERLEBENLAENGER（XCスキーヤーは長生き出来ると言う意味）と書かれています。

※写真は木島平村スキー場開設10周年の様子↓

